

陳 情 文 書 表

受理番号	陳情 7 第 1 1 号	受理年月日	令和 7 年 2 月 5 日
件 名	「新たな目黒区民センター等整備・運営事業」再検討に関する陳情		

【陳情の趣旨】

「新たな目黒区民センター等整備・運営事業」について、現存建物の躯体を活用したリノベーションの可能性も含め、あらためて区民の意見を反映させた計画として再検討していただきたく、陳情いたします。

2024年末、区は「現行条件での計画継続は困難」とし、事業公募の一時中断を決定しました。現在、国内では建築費の高騰により、国立劇場をはじめとする多くの公共建築のPFI事業が中断しています。

目黒区民センター（1974年竣工）、目黒区美術館（1987年竣工）は、建築躯体そのものは堅牢です。目黒区民センターについては耐震基準に満たないのは5階の一部にすぎず、補強または減築、近年可能になっているZEB化改修、などを施すことで、維持管理コストは現在より抑えられます。丸ごと解体し、0から新築するよりもはるかに安い工事費で済み、排出するCO2や産業廃棄物も圧倒的に減少します。短期間での工事が可能になり、地域住民への悪影響も軽減されます。

リノベーションの工事規模ならば「目黒区内の中小事業者が直接、工事を受注できる」ようになり、地域経済の活性化も見込めます。

かつて目黒区は、千代田生命本社ビル（1966年竣工）をリノベーションすることで目黒区総合庁舎として活用するという選択をし、きわめて先見的な成功例として称賛を集めてきました。多くの自治体から先行事例として参照されています。最近では1938年築の建物をリノベーションした港区立郷土歴史館等複合施設も大きな注目を集めています。

目黒区美術館は、築40年に満たない新しい建築です。建築家協会からも提言書が提出されているように、きわめて堅牢、かつ美しく、長期的に使用できるような工夫が施された建物です。この美術館の建物を解体してしまうことは、目黒区総合庁舎を大切に使い続けている区の姿勢と全く矛盾しています。

下目黒小学校の建て替えは必要ですが、区民センターのリノベーションが可能になれば、将来の区民センター施設との共用を考慮して目黒区が直接計画し、責任をもって維持管理することが望まれます。

公共空間というのは、そこに暮らす住民、訪れるすべての人々に対して、「この街は皆さんを歓迎し、良い暮らしをともに作っていきたい」というメッセージを伝える、特別な場所だと思います。区民に愛される公共空間は、多くの人が時間

を過ごし、手を入れ、大切に使うことで生み出されるものです。

【陳情事項】

「新たな目黒区民センター等整備・運営事業」について、現存建物を取り壊さない選択肢を含め、専門家、区民、行政の叡知を結集した再考を求めます。